

京都府立圖書館

昭和二十九年度事業報告

(昭和二十九年四月一昭和三十年三月)



一、概況

昭和二十九年年度の京都府立圖書館における利用者数は、本館開館以來の記録破りの數字となつた。圖書館利用者の數は逐年増加し、三月及び四月を除いては殆んど毎月満員で、特に土曜日・日曜日の利用者の殺到ぶりは甚だしく、係員がその整理に忙殺される狀況である。多年の懸案である閱覽室の増築の必要が痛感せられる。

伏見區内における分館の新築は地元有志の協力によつて實を結び、昭和二十九年七月から新館において利用者に奉仕することになつた。新館開館後の利用者數は著しく増加している。

本館の利用者の激増に伴い定員増加の必要はかねてから痛感されていたが、漸く五名の職員を増加することが決定し、本年度末において既に二名の増員を見た。他の三名も近く増員の見込である。

二、利用者（本館並びに市内三分館）

本年度の利用者總數は、三十四萬三千五百五十七名で、昨年度に比して一二・六パーセントの増加で、一日平均利用者數は一千二百十五人（昨年度二千九百七十七人）である。

昭和十二年（戦前最高）	一一九、二〇一名
昭和二十六年	二三五、五六〇名
昭和二十七年	三二二、九九六名
昭和二十八年	三〇四、七四一名
昭和二十九年	三四三、一五七名

三、館外貸出冊數（貸出期間一ヶ月、郡部を對象とする活動）

昭和二十六年	四五、三四七冊
昭和二十七年	六一、二八〇冊
昭和二十八年	七七、四四三冊
昭和二十九年	八四、三〇七冊

これらの長期貸出の圖書は、おむね三人の利用者の手を経

る狀況であるから、昭和二十九年年度の長期貸出利用者數は、約二十五萬三千人と推定せられる。これら貸出圖書の分類別比率は、文學七三%、社會科學五%、歴史四%、工學四%、自然科學三%、産業三%、藝術三%、哲學二%、總記二%、語學一%である。

四、京都市内四館の利用者の内譯

利用者數	本館	伏見分館	河原町分館	上京分館	計
	三七、〇九人	四、六六人	四、一八人	三、六八人	
利用冊數	三三、〇三冊	三、三三冊	三、五九冊	三、八八冊	四〇、〇三冊
開館日數	三九日	三〇日	三三日	三九日	
一日平均	八四人	一八人	二三人	九人	一二、三五人

これを男女別に見ると、

本館	男	伏見分館	河原町分館	上京分館
	七一%	六三%	八七%	七八%
女	二九%	三七%	一三%	二二%

更にこれを一般人と學生とに別けて見ると、

一般	本館	伏見分館	河原町分館	上京分館
	二一%	一三%	五七%	一七%
學生	七九%	八七%	四三%	八三%

尚、學生の種類別は、岡崎本館の調査によれば、

大學生	三二%	高校生	四〇%
中學生	一五%	小學生	一三%

五、利用圖書の内容

岡崎本館の本年度の利用冊數は三十四萬三千四百二冊で、一日の利用冊數は平均千二百三十一冊、一人の平均利用冊數は一・五冊である。いま、これを圖書の種類で示すと、次の通りである。

總記	四・三%	哲學宗教	二・七%
歴史地誌	一〇・三%	社會科學	一一・八%

自然科學	一一・一%	工學	三・九%
産業	一・八%	藝術	三・四%
語學	三・七%	文學	一七・九%
兒童書	一八・二%	新聞雜誌	一〇・九%

六、藏書冊數

昭和二十九年年度末における京都府立圖書館の藏書冊數は二十三萬六千七十二冊で、本年度中における購入圖書五千三百九冊受贈圖書四百二十六冊、編入受入圖書四百十七冊、數量更正による増加三冊計六千五百五十五冊の増加に對し、毀損亡失などによる除籍圖書百二冊あつて、昨年度末に比して六千五百三十三冊の純増であつた。藏書の内譯は次の通りである。

岡崎本館	一八七、七八一冊
本館貸出文庫	二〇、二〇七冊
伏見分館	五、三一五冊
河原町分館	三、九七一冊
上京分館	三、六二五冊
峰山地方分館	三、二八〇冊
宮津地方分館	三、二七一冊
綾部地方分館	三、一八四冊
園部地方分館	一、七九九冊
北桑地方分館	一、八一九冊
木津地方分館	一、八二〇冊
總計	二二六、〇七二冊

七、開架室の利用狀況

現在、開架された圖書は、基本圖書並びに利用頻度の高い圖書であつて、新聞雜誌と共に、一般利用者の自由利用に供せられてゐる。開架冊數の内譯は、

兒童室	約二千冊
學生室	約二千五百冊
一般閱覽室	約八千冊

八、讀書相談奉仕の充實

昭和二十七年十月から本館に讀書相談室を新設し、専任の司書二名を置いてこれに當らせ、開始以來成績をあげてきた。本年度の相談件數は一萬三千四百八十九件であつて、このうち、口頭による相談が一萬五百三十四件、電話によるものが二千八百件、郵便による問合せが百五十五件であつて、一日平均四十九件の相談に應じてゐる。

尚、公共圖書館・學校圖書館の職員の見察や、圖書館學專攻の大學生の研究及び高等學校・中學校・小學校の學生・生徒・兒童の國語・社會科等の實地見學のために本館に來るもの甚だ多く、それらに對する指導助言や案内もこの係が担当してゐるが、その回數は年間數十回に及んでゐる。

九、辭書体目録の採用

かねてから實施中の分類變更と目録の更新とが一部でき上つたので、辭書体目録を編成して昭和二十八年十月二十三日から利用者に提供してゐる。これは、著者名・書名・件名の三種のカードを一括してアイウエオ順に配列したもので、利用者が思うままに、これらの三つのカギから求める圖書を容易に探し出すことが出来るもので、現在約一萬二千冊の圖書の整理を終つた。

十、兒童室

近來學校圖書館が著しく充實して來たことと併行して兒童室の利用も増大した。附近の小學校兒童より圖書委員を選んで圖書室の運営に協力してもらつてゐる。本年度中の利用人員は二萬三千四百四十五名で、男女の比率は、男兒五十六パーセント、女兒四十四パーセントである。

十一、分館

(一) 伏見分館(昭和二十五年二月創設)

伏見地區は岡崎本館から約八軒の場所にあつて、分館の負う使命は大きい。はじめ、伏見信用金庫の二階約六十坪を借用していたが、昭和二十九年、現在の伏見分館が新築落成し、七月新館に移転した。敷地二百六十四坪餘、建物百一坪五合（閱覽室六十四坪、事務室八坪、その他二十九坪五合）總工費四百四十八萬九千三百圓であつて、土地は伏見區民の寄附によるものである。尚、新築に際し伏見區民から七点約八萬四千圓の備品の寄贈を受けた。新館移転後は建物の快適なのが原因して利用者の急激な増加があつた。本年度の利用者總數は四萬九千六百九十六名で、その八十七パーセントは學生である。

(二) 河原町分館（昭和二十四年六月創設）

京都の繁華街河原町通に位置し、丸善書店の地階約三十坪を利用している。藏書は小説と隨筆と新聞雜誌とに限り、その内容も常に新陳代謝をはかつている。藏書冊數は約四千冊で、完全開架制をとつてゐる。席は約五十人分あるが、常に滿員の盛況である。本年度の利用者總數は四萬八千四百四名で、學生以外の一般人の利用が多く五十七パーセントを占めてゐる。

(三) 上京分館（昭和二十六年四月創設）

上京地區も岡崎本館より距離遠く、分館充實の必要を強く感じさせられる。現在の分館は紫郊會館の一室を借用して閱覽室としてゐる。藏書はクルーガー文庫と合せて約三千六百冊である。部屋の狭少のため、藏書並びに閱覽席の増加ができない状況である。本年度の利用者は二萬六千二百六十八名である。

(四) 地方分館

昭和二十五年七月に峰山・宮津・綾部の三地方分館が發足し、昭和二十七年更に園部・北桑・木津の三地方分館が開設せられた。これらの地方分館は、地域内の公民館・婦人會・青年團その他の文化團體に對して、三十冊乃至五十冊の團體貸出（期間一ヶ月）を行うものであつて、その利用團體數は本年度二千四百八十七團體の多きに上つた。又その貸出冊數は八萬七千九百

六冊に達した。今、その内譯を示すと次の通りである。

館名	利用團體數	利用冊數
峰山地方分館	三六一團體	一三、六三三冊（七、八月休館）
宮津地方分館	三三五	一六、八五九
綾部地方分館	五一〇	一九、三九一
園部地方分館	三二五	一〇、二九一
北桑地方分館	三四〇	九、一〇一
木津地方分館	六一六	一一、五二一
總計	二、四八七	八〇、七九六

十二、本館附屬貸出文庫

本年度における貸出文庫の利用團體數は百二十二團體で、その貸出冊數は三千五百一十一冊であつた。利用團體の半數は京都市内で、その他は近郊の農村地區である。

十三、印刷物

本年度に次の印刷物を作成して、府縣市立公共圖書館、著名官公立大學圖書館に寄贈した。

京都府立圖書館善本目錄 本館所藏の和漢古版本・古寫本・圖繪等のうち貴重と考えられるもの約二百三十種を集録し解説を加えたもの。

都市における分館論 英米主要都市における圖書館分館の設置状況についての研究。

十四、經費

本年度諸經費は約一千五百八十萬圓で、その内譯は人件費約一千百三十五萬圓（七一・八パーセント）、圖書館資料購入費約二百九十五萬圓（一八・七パーセント）（書籍約二百十五萬圓、定期刊行物約八十萬圓）、その他の經費約百五十萬圓（九・五パーセント）であつた。尚、昭和三十年三月末現在の館員は、主事二十四名、主事補十八名、傭人一名、臨時雇八名である。